

環境経営レポート

2019年度

エコアクション21ガイドライン2017年版に準拠

《対象活動期間 2019年4月～2020年3月》



発行日 2020年10月19日

改訂日 2021年 2月15日

株式会社オカザキテクノグラス

目 次

1、環境経営方針	P-1
2 組織の概要	P-2
3、対象範囲	
4、環境活動組織図(職務の責任と権限)	P-2
5、環境経営目標	
・二酸化炭素の削減 ・廃棄物の削減 ・水道水の削減 ・製品サービス について	P-3
・グリーン購入 ・作業改善	
・化学薬品の使用量削減 について	P-4
6、環境経営計画(目標値は2021年度到達値)	P-5
7、環境経営目標の実績 《活動期間:2019年4月～2020年3月》	P-6
8、環境経営計画の取り組結果とその評価並びに次年度の取組	P-6
・ボランティア(活動状況)	P-7
・環境活動の次年度への取り組み	P-8
9、環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反 訴訟などの有無	P-9
10、代表者による全体の評価と見直し・指示	P-10

1, 環境経営方針

[企業理念]

当社は、ガラス製品の製造・販売業への事業の転換に伴い
企業の社会的責任として、環境保全と改善に積極的に取り組み
継続的にお客様並びに地域への責任と役割を果たしてまいります。

[方針]

1. 当社が企業活動を行っていく上で、適用を受ける環境関連法規等に於ける要求事項を遵守します。
2. 環境経営目標を定め、その実現を図り、定期的な見直しを行い継続的な改善活動を行います。
3. 事業活動を通じ、省エネルギー、省資源（水）、廃棄物の削減を通じ、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
4. 事業活動を通じ、当社が購入する原材料・資材のグリーン購入を推進します。
5. 環境保全活動を通じて、地域社会との連帯に努めます。
6. 環境活動について、社員教育を行い、環境保全の意識を高めます。

制定 2008年5月30日
改定 2011年1月5日
改定 2018年4月6日
株式会社 オカザキテクノグラス
代表取締役社長 岡 律雄

2, 組織概要

【社名】	株式会社オカザキテクノグラス
【代表者】	代表取締役 岡 律雄
【資本金】	350万円
【所在地】	本社 〒444-2134愛知県岡崎市大樹寺2丁目16番地3 主な業務：事務管理、製造、商品管理、営業
【担当者】	環境管理責任者 杉山 稚昭 TEL:0564-26-5450 FAX:0564-26-5451 メールアドレス:c.sugiyama@okazakitechnoglass.co.jp
【売上高】	2.78億円(2019年度)
【会社規模】	従業員数 18名 社屋 平屋建(延床面積： 大樹寺業務センター 264㎡) 光学用特殊ガラス(カメラ用フィルターガラス)の製造・販売、並びに 計量・計測器用ガラス(水道メーター用ガラス、圧力計用ガラス)の販売
【沿革】	2002年12月 オカザキテクノグラス設立 2004年1月 有限会社オカザキテクノグラス 2007年12月 株式会社オカザキテクノグラス 2016年6月 新工場を岡崎市大樹寺に竣工し、本社機能を新工場に移し業務センターとして、スタートした 2017年5月 中国での研磨作業を、国内生産化する為、各種生産設備を導入 商社・製造販売への業種転換をはかる

3 対象範囲

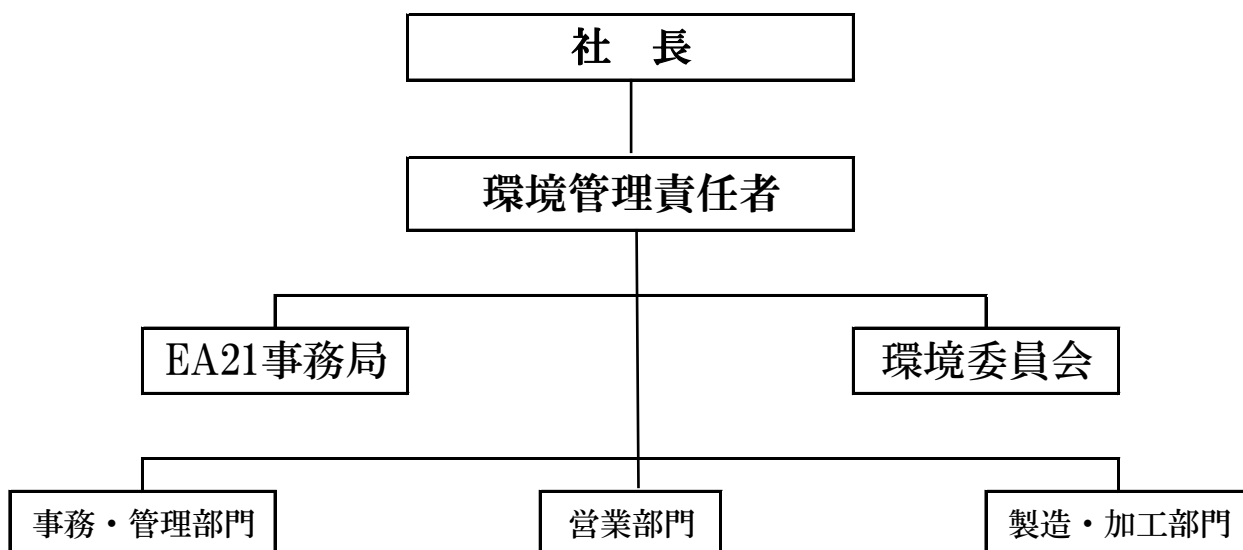
①全組織・全活動

②従業員数 社員 18名

③活動範囲

2019年4月～2020年3月までの活動を環境活動レポートにまとめました。

4、 環境活動組織図（職務の責任と権限）



役割・責任・権限	担当
<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任者 環境経営方針を制定し、全社員への周知・徹底を図る 環境管理責任者及び、必要な責任者を任命する 定期的なシステムの見直しを行い、評価・見直し・指示を行う 環境経営に於ける課題・チャンスを確認し、環境経営方針・環境経営目標に反映させる 環境マネジメント関連の予算の調整と確保 	社長
<ul style="list-style-type: none"> 環境経営マネジメントシステムの管理 環境活動の結果を代表者へ報告 エコアクション21に関連する書類（標準書、手順書、記録類、環境活動報告書）の承認を 是正、予防処置の勧告 内外部の環境関連情報の受発信 	環境管理責任者
<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐 環境への負荷の自己チェック表、環境への取り組みの自己チェック表の作成・評価 環境目標の作成と取組・改善のとりまとめ 環境活動レポートの作成 環境上の法規制、その他の要求事項の不具合・是正 教育・訓練の計画立案 	EA-21事務局
<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システム運営の為の審議・決議を行う 環境データ、環境経営関連文書の審議を行う 環境目標に対する実施状況の確認を行う 	環境委員会
<ul style="list-style-type: none"> 自部門に於ける環境経営システムの実施 自部門に於ける環境経営方針の周知・徹底 自部門の従業員に対する、教育訓練の実施 自部門に於ける環境負荷低減の改善活動の実施 自部門の問題点の是正・予防措置の実施 	部門長
<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解とその取り組みの重要性の理解 積極的な環境活動への参加(作業改善の提案) 	全従業員

5、 環境目標

《二酸化炭素の削減》	2019年度		2020年度		2021年度	
	目標	主な施策	目標	主な施策	目標	主な施策
《電力使用量の削減》 電力使用量を原単位で2018年度実績ベースで管理する。 2018年度実績=117,200KWh 2018年度売上げ実績=268.81百万円 $117200\text{KWh} \div 268.81 = 435.99\text{KWh/百万円}$ 435.99KWh/百万円…管理指標 197.06kg-CO₂/百万円-①	2018年度の売上 対比実績で2.0% 削減する。 $435.99 \times 0.98 =$ 427.27KWh/百万円 193.12kg-CO₂/百万円	工場照明のLED化 電気使用量の管理	2018年度の売上 対比実績で2.5% 削減する。 $435.99 \times 0.975 =$ 425.09KWh/百万円 192.14kg-CO₂/百万円	工場照明のLED化 センサ-SWの活用 電気使用量の 管理	2018年度の売上 対比実績で3.0% 削減する。 $435.99 \times 0.970 =$ 422.91KWh/百万円 191.15kg-CO₂/百万円	機械加工の効率化 作業改善 電気使用量の 管理
《軽油使用量の削減》 軽油使用量を売上高対比で2018年度実績ベースで管理する。 2018年度使用量=3997ℓ $14.87\ell / \text{百万円} \dots \text{管理指標}$ 2018年度売上実績=268.81百万円 $3997 \div 268.81 = 14.87\ell / \text{百万円}$ 38.36kg-CO₂/百万円-②	2018年度の売上高 対比実績で2.0% 削減する。 $14.87 \times 0.98 =$ $14.57\ell / \text{百万円}$ 37.59kg-CO₂/百万円	納入回数の見直し 自動車運転管理	2018年度の売上高 対比実績で2.5% 削減する。 $14.87 \times 0.975 =$ $14.50\ell / \text{百万円}$ 37.41kg-CO₂/百万円	納入回数の見直し 顧客巡回の見直し 自動車運転管理	2018年度の売上高 対比実績で3.0% 削減する。 $14.87 \times 0.970 =$ $14.42\ell / \text{百万円}$ 37.20kg-CO₂/百万円	納入回数の見直し 顧客巡回の見直し エコカーの入れ替え タイヤ空気圧管理の徹底 自動車運転
二酸化炭素合計-2018年度指標 ①+② 235.42kg-CO₂/百万円	230.71 kg-CO₂/百万円		229.55 kg-CO₂/百万円		228.35 kg-CO₂/百万円	
《廃棄物の削減》 廃棄物発生量を売上対比で2018年度実績ベースで管理する。 (一般廃棄物) 2018年度発生実績=177.0Kg 2018年度売上実績=268.81百万円 $177.0 \div 268.81 = 0.66\text{Kg/百万円}$ 0.66Kg/百万円…管理指標 (産業廃棄物) 2018年度発生実績=24,963Kg 木クズ:3,903Kg 汚泥:9,810Kg 硝子クズ:11,250Kg 2018年度売上実績=268.81百万円 $24,963 \div 268.81 = 92.86\text{Kg/百万円}$ 92.86Kg/百万円…管理指標	2018年度の売上高 対比実績で2.8% 削減する。 $0.66 \times 0.972 =$ 0.642Kg/百万円 $92.86\text{Kg} \times 0.972 =$ 90.26Kg/百万円	コピー紙の裏紙再利用 《廃棄物の再利用》 端材量の有効活用 廃棄物の 分別管理	2018年度の売上高 対比実績で3.0% 削減する。 $0.66 \times 0.97 =$ 0.640Kg/百万円 $92.86\text{Kg} \times 0.970 =$ 90.07Kg/百万円	コピー紙の裏紙再利用 コンビニごみの返却 《廃棄物の再利用》 廃棄物の 分別管理	2018年度の売上高 対比実績で3.5% 削減する。 $0.66 \times 0.965 =$ 0.637Kg/百万円 $92.86\text{Kg} \times 0.965 =$ 89.61Kg/百万円	コピー紙の裏紙再利用 コンビニごみの返却 《廃棄物の再利用》 廃棄物の 分別管理
《水道水の削減》 水道使用量を原単位で2018年度実績見直しベースで管理する。 2018年度実績=1885m ³ $1885 \div 268.81 = 7.01\text{m}^3/\text{百万円}$ 7.01 m³/百万円…管理指標	2018年度の売上高 対比実績で1.0% 削減する。 $7.01 \times 0.99 =$ $6.94\text{m}^3/\text{百万円}$	節水管理	2018年度の売上高 対比実績で1.2% 削減する。 $7.01 \times 0.988 =$ $6.92\text{m}^3/\text{百万円}$	節水シャワー栓の活用 節水管理	2018年度の売上高 対比実績で1.4% 削減する。 $7.01 \times 0.986 =$ $6.91\text{m}^3/\text{百万円}$	節水シャワー栓の活用 洗車時の節水 (高圧洗浄機の活用) 節水管理
《製品サービス》 弊社製品のSDSの提供 環境に配慮した製品の提案	顧客への提供2社発行 提案件数 1件	材料分析管理 工程改善	顧客への提供2社発行 提案件数 1件	材料分析管理 工程改善	顧客への提供2社発行 提案件数 1件	材料分析管理 工程改善
《グリーン購入》 事務用品の購入 エコ商品 30%	エコマーク商品の 拡大 4%UP 31%	購入時チェック 管理	エコマーク商品の 拡大 5%UP 32%	購入時チェック 管理	エコマーク商品の 拡大 6%UP 33%	購入時チェック 管理
《作業改善》 (ムリ、ムラ、ムダの改善) ガラス加工の効率化	新規ガラス加工 工程標準化	加工機械作業の 効率向上	新規ガラス加工 工程標準化	加工機械作業の 効率向上	新規ガラス加工 工程標準化	加工機械作業の 効率向上

※電力使用量による二酸化炭素の排出係数は、0.452kg-CO₂/KWH を使用。
 ※軽油使用量による二酸化炭素の排出係数は、2.58kg-CO₂/ℓ を使用。

【補足】

- ・2018年度二酸化炭素算排出量は、電力消費量と軽油消費量にそれぞれ、表記係数を使用して算出しました。
- ・営業車としては、全てがディーゼル車を使用している為、軽油のみである。

《化学薬品の使用量削減》

薬品名	2019年度		2020年度		2021年度	
	目標	主な施策	目標	主な施策	目標	主な施策
トーンパープル 2018年度使用実績:280Kg 2018年度見直し売上げ=268.81百万円 280Kg÷268.81=1.04Kg/百万円	2018年度の売上高対比で1%削減する 1.03Kg/百万円	研磨排水を減らす 研磨作業の効率改善 16B機の有効活用	2018年度の売上高対比で1.5%削減する 1.02Kg/百万円	製品洗浄工程の節水 研磨作業の効率改善 16B機の有効活用	2018年度の売上高対比で2%削減する 1.019Kg/百万円	製品洗浄工程の節水 蛇口の自動栓化
セルテックスD-31 2018年度使用実績:35Kg 2018年度見直し売上げ=268.81百万円 35Kg÷268.81=0.13Kg/百万円	2018年度の売上高対比で1%削減する 0.128Kg/百万円	洗浄液の使用期間 見直し 交換機間の見直し 5日⇒7日	2018年度の売上高対比で1.5%削減する 0.128Kg/百万円	洗浄液交換の標準化	2018年度の売上高対比で2%削減する 0.127Kg/百万円	長寿命の代替品の検討
ユシロンオイルCL35 2018年度使用実績:690ℓ 2018年度見直し売上げ=268.81百万円 690ℓ÷268.81=2.57ℓ/百万円	2018年度の売上高対比で1%削減する 2.54ℓ/百万円	交換時期の見直し 潤滑油の寿命改善	2018年度の売上高対比で1.5%削減する 2.53ℓ/百万円	潤滑油の再利用検討 ⇒遠心分離機の活用	2018年度の売上高対比で2%削減する 2.52ℓ/百万円	遠心分離機の改善
IPA(イソプロピルアルコール) 2018年度使用実績:1,850Kg 2018年度見直し売上げ=268.81百万円 1850ℓ÷268.81=6.88ℓ/百万円	2018年度の売上高対比で1%削減する 6.81Kg/百万円	2槽からの水切り作業 の徹底	2018年度の売上高対比で1.5%削減する 6.78Kg/百万円	水切り作業の改善	2018年度の売上高対比で2%削減する 6.74Kg/百万円	濃度管理値の見直し
アルセラクリーン 2018年度使用実績:50ℓ 2018年度見直し売上げ=268.81百万円 50ℓ÷268.81=0.19ℓ/百万円	2018年度の売上高対比で1%削減する 0.188ℓ/百万円	洗浄液交換周期の 見直し改善	2018年度の売上高対比で1.5%削減する 0.187ℓ/百万円	洗浄液交換周期の 見直し改善	2018年度の売上高対比で2%削減する 0.186ℓ/百万円	洗浄液交換周期の 見直し改善
セリコCH-D3A 2018年度使用実績:1,654Kg 2018年度見直し売上げ=268.81百万円 1654Kg÷268.81=6.15Kg/百万円	2018年度の売上高対比で1%削減する 6.09Kg/百万円	製品取り出し後の 研磨定盤の水除去 徹底	2018年度の売上高対比で1.5%削減する 6.06Kg/百万円	研磨剤管理の見直し 適正比重値の見直し	2018年度の売上高対比で2%削減する 6.03Kg/百万円	製品取出し後の残 研磨剤をタンクへ戻す

表記化学薬品は、PRTR法には該当しないが、当社としては化学物質も使用量削減管理対象として、目標設定し、活動して行く。

6、環境活動計画(目標値は2021年度到達値)

1、二酸化炭素排出量を売上高あたり(原単位)3.0%削減する。

- 1) 電力使用量を売上高あたり3.0%削減する。
 - ・休み時間、定時後の消灯
 - ・空調機の温度管理(夏27℃±1℃、冬20℃±1℃)を行う。
 - ・工場照明LED化と省エネ機器の検証・導入
 - ・ガラス研磨・加工作業の効率化を行う。
- 2) 軽油使用量を売上高あたり3.0%削減する。
 - ・軽油使用量管理
 - ・納品経路の見直し(効率的な搬送)
 - ・納品回数の見直し(長野便:4回/月 ⇒ 2回/月 大阪便の海外貨物受け取り日程とのリンク化)
 - ・車輛点検の実施(タイヤ空気圧の適正化・管理徹底)
 - ・高速道路の有効利用
 - ・エコ運転教育の実施(高速:80Km、一般道:法定速度内、アイドリングストップの励行)

2、廃棄物排出量を売上高あたり3.5%削減する。

- 1) 一般廃棄物排出量を3.5%削減する。
 - ・廃棄物排出量の管理
 - ・分別管理の徹底とリサイクルステーションによる集中管理
 - ・郵便物(封筒の再利用)による廃棄の削減
 - ・コピー紙の裏紙使用により、廃棄の削減
- 2) 産業廃棄物排出量を3.5%削減する。
 - ・マニフェスト伝票の管理
 - ・産廃排出量の管理
 - ・分別の徹底
 - ・ガラス加工の改善による廃ガラス量の削減(加工プログラムの見直し)
 - ・廃棄用ガラスの再利用化の推進(不良品の再加工化と、端材の有効活用)
 - ・マテハンの推進(コンテナの循環)

3、水使用量の削減を売上高あたり1.4%削減する。

- ・洗車時の節水化の対応(洗車回数の見直し、高圧洗浄機の使用)
- ・自動センサー栓の検討・導入

4、製品の環境負荷低減提案とSDSの提供により、顧客への環境配慮を行う。

- ・モニターガラスの再研磨によるリユース化の提案
- ・第3者機関での材料分析の実施。

5、グリーン購入(事務用品)の基準値27%からエコマーク認定商品を6%拡大する。

- ・エコマーク認定商品の購入量管理

6、作業改善(ムリ、ムダ、ムラ)によるガラス加工作業の効率化をする。

- ・ガラス研磨加工工程の標準化・合格率UP

7、化学薬品の使用量削減-2%削減

- ・使用量&在庫管理の徹底
- ・製造工程の標準化

7、環境目標値の実績《活動期間：2019年4月～2020年3月》

環境目標項目	取組基本数値	19年度の目標値		1年間の活動実績		達成率	評価
①二酸化炭素の削減	235.42 kg-CO2/百万円	電気	193.12 Kg-CO2/百万円	電気	168.59 Kg-CO2/百万円	114.6%	○
		軽油	37.20 Kg-CO2/百万円	軽油	34.98Kg-CO2/百万円	106.3%	○
		合計	230.71 Kg-CO2/百万円	合計	203.57Kg-CO2/百万円	113.3%	○
(二酸化炭素総排出量)	—	62,020.92Kg-CO2		56,572.92Kg-Co2		—	—
②電気使用量削減	435.99 kWh/百万円	427.27 kWh/百万円		373.0 kWh/百万円		114.6%	○
		193.12 Kg-CO2/百万円		168.59 Kg-CO2/百万円			
③軽油使用量削減	14.87 ℓ/百万円	14.42 ℓ/百万円		13.56 ℓ/百万円		106.3%	○
		37.20 Kg-CO2/百万円		34.98Kg-CO2/百万円			
④一般廃棄物削減	0.66kg/百万円	0.642 kg/百万円		0.630 kg/百万円		101.9%	○
⑤産業廃棄物削減	92.86kg/百万円	90.26kg/百万円		85.98 kg/百万円		109.6%	○
⑥水道水使用量削減	7.01m/百万円			7.68 m ³ /百万円		90.0%	×
⑦製品のSDSの発行	2社	2社発行		2社		100.0%	○
⑧グリーン購入(事務用品)	30%	30%		32%		107.0%	○
⑨作業改善(ガラス加工)	改善件数	7件		7件		100.0%	○

注：実績の算出は電力使用に伴う二酸化炭素排出量46,8848.90kg-CO2、軽油使用に伴う59,724.02、一般廃棄物176.78kg、産業廃棄物26,464kg、売上277.88百万円として算出しました。

化学薬品の使用量削減

薬品名	取組基本数値	19年度の目標値	1年間の活動実績	達成率	評価
トナーパーラ	1.04kg/百万円	1.03 Kg/百万円	1.62 Kg/百万円	63.5%	×
セルテックスD-31	0.128Kg/百万円	0.128 Kg/百万円	0.07 Kg/百万円	182.8%	○
ユシロンオイルCL3	2.57ℓ/百万円	2.54 ℓ/百万円	2.16 ℓ/百万円	117.5%	○
IPA	6.88ℓ/百万円	6.81 ℓ/百万円	6.40 Kg/百万円	106.4%	○
アルセラクリーン	0.189ℓ/百万円	0.188 ℓ/百万円	0.19 ℓ/百万円	98.9%	△
セロコCH-D3A	6.15Kg/百万円	6.09 Kg/百万円	4.61 Kg/百万円	132.1%	○

8 環境経営計画の取組結果とその評価、並びに次年度の取組

《2019年度評価》

ガラス加工の技術力向上と工程改善及び工場内照明のLED化を推進したが、加工機械の導入により、電力使用量及び水道水の使用量と産業廃棄物の排出量が、以前より大幅に増えたが、新たな目標設定を行い、削減活動を実施することが出来た。水道水の使用量は1-3月がコロナの影響で、売り上げ高減少(安いモニターガラス需要が大)傾向の為、原単位算出すると未達に終わった。

二酸化炭素削減目標に対しては、加工工程の改善(研磨材の見直し)により、機械の稼働時間短縮等が、電力削減に寄与した。又、軽油の使用量については、長野方面の顧客への納入便の回数を、1便/週 ⇒ 1便/2週に変更し巡回経路を見直し、走行距離を削減し、車の燃料消費を抑えることが出来た。

廃棄物に於いては、従来の木くずとガラスくずに加えて、新たに汚泥処理が追加になって、排出量が増加したが新たに、目標設定を行い、削減活動を実施した。

化学薬品の使用量削減については、2018年度使用量を指標に、目標設定を行い、小さな作業改善の積み重ねが使用量の削減につながった。又一部の薬品で未達成が出ており、使用量は、減っているが、1-3月の売り上げ減少がその要因となっている。

- ①ガラス加工に於ける、端材の再利用を検討し、破棄する基準を新たに設定し、破棄する量を減らした。
- ②加工プログラムの見直しにより、定尺当たりの取り数を増やすことで、破棄する量を削減した。
- ③中国からの貨物を従来の月-2便を1便にすることで、輸送効率を改善した。

他では、節水トイレの導入等で水の使用量が削減に寄与しているが、1-3月の売り上げ減少が、原単位で見た場合未達となっている。SDS提供・グリーン購入・作業改善等も目標達成しました。

※ 製品のSDS提供するために、購入品・材料等について、SDSを購入先へ要求し、対応出来ないものについては、外部での分析を行い、顧客へのサービスをおこないました。

※ グリーン購入については、事務用品のエコマーク認定商品購入を推進いたしました。

※ 切削油の廃油については、有価対象とする為、業者との交渉を行い、実施の方向で合意出来た。

ボランティアへの参加(活動状況)

毎月第一月曜日、第三月曜日は、始業時間前に、会社周辺の清掃作業を実施



今回の清掃作業は、A班の4名で実施
自販機周りは、通行者がごみを置いて
行くので、重点的に行っています。



環境活動の次年度への取り組み

★ 大樹寺業務センターでの環境活動となりました。期間2020年4月～翌年3月までの活動期間です。

取組事項	主な活動内容
電気使用量削減	製造部門のガラス加工用施設(一般照明・空調・動力等)使用量削減管理を強化し推進する。 照明のLED化は100%完了しています。⇒今後は、人働センサー等の活用検討する。 エアコンの温度管理(夏26度、冬20℃度設定)と不用な箇所の消灯を進める。 新規導入による機器については、環境負荷を考慮したと省エネ機器の入れ替え検討。
軽油使用量削減	車両は、納品・引き取り用に使用されるので、エコ運転活動展開している。 燃料使用量管理にプラスし車輛管理を実施している、主なものにエンジンオイル・タイヤ空気圧の適正化と定期点検の実施。 次期導入車両のハイブリット化による、省エネの実施。 物流変化に応じた、運送の集中化及び巡回経路等も見直しムダをなくす。 納入便(大阪便、長野便)の回数の見直し、中国からの海外便の入港予定日と大阪便とのリンク化
一般廃棄物削減	発生量は少ないが、販売先の変化による影響があるので注意管理を行い更に分別の徹底を図る。
産業廃棄物削減	海外物流による木パレットの仕様の見直し ガラス加工後の廃ガラスを減らす為、加工プログラムの見直しにより、廃棄分の減少化を図る 新規事業導入により発生する『汚泥』処理について、加工工程の改善により、発生量を減らす
水道水使用量削減	トイレはエコトイレを採用。- 自動化による節水(流水量調整の実施) 洗車時の節水化の実施--- 高圧洗浄機の導入したので、更に洗車の回数等にも工夫し節水する。 工程内でのガラス洗浄工程を見直し、更なる節水につとめる。
製品サービス関連	当社製品材料の分析を行い、取引先にSDS情報を発行する。 モニターガラスの再研磨化の提案推進 顧客の要望による、納入製品の、通箱化(プラ・折り畳み化)の推進
グリーン購入(事務用品)	グリーン購入を行うために、事務用品のエコ商品購入管理を進めます。 更に、エコ商品利用の拡大を図る。
作業改善(ムリ、ムラ、ムダ)	なぜなぜ運動の推進。 ムリ・ムラ・ムダ の改善作業の実施。
化学薬品の使用量削減	芯取作業工程や研磨工程での、作業改善による効率向上により、使用量削減を行う 切削油の遠心分離により、循環・使用をのばす。 洗浄液交換時期の適正化とその標準化 研磨材管理の見直しと、適正比重値の見直し ⇒ 標準化 使用量削減項目で、未達に終わった化学薬品で、後半6か月が単価の安いモニターガラスに製造が集中し、付加価値の低い製品製造に於いても、同薬品は、同等使用されていることが判明、事業内容に基づき、今後の目標値を再設定していく

9, 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

(1)環境関連法規については環境法規制等一覧表及び遵守チェックリストによりチェックした結果違反はありませんでした。
適用となる主な環境法

- 県民の生活環境の保全等に関する条例(騒音と振動)、(騒音規制法)(振動規制法)
エアーコンプレッサーのロータリー方式の導入とエアータンクの設定・併用による低騒音化
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)
- 使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)
- 特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)
- 資源の有効な利用の促進に関する法律(改定リサイクル法)
- エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)
- 加工排水の下水への放出(下水道法)(水質汚濁法)
- 使用化学薬品に関する法律(大気汚染防止法)(消防法)(化審法)

(2)違反、訴訟の有無

過去3年間、関連機関から特に指摘・指導はなく、訴訟も1件もありませんでした。

10, 代表者による全体評価と見直し・指示

項 目		評 価 内 容	
全体評価	環境活動への取り組みは適切に実施されているか	二酸化炭素の排出量削減、電力使用量削減、廃棄物(産廃)の削減等による、環境経営目標を達成するための取り組みは適切に実施されている 職場の、改善提案も実行されている	
	環境経営システムが有効に機能しているか	システムについては、問題なく有効に機能している	
見直し・指示	対 象	変更有無	見直しの内容・指示
	環境経営方針	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	2018年4月に改訂したばかりで、変更の必要はない
	環境経営目標	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	現状の目標値で進める
	環境経営計画	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	
	実施体制	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	若いメンバー中心で運用する
		有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
		有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	

総合的な評価と指示事項

従来の業務形態が、商社形態 ⇒ 商社・製造・販売の業務形態へと変わった背景での活動でした。

エネルギー使用量や産業廃棄物の量も大幅に増加し、新たな環境経営目標の今年度の目標である二酸化炭素の排出量、電力使用量、軽油使用量、産業廃棄物等については、達成することができましたが、水道水の使用量や、一部の化学品使用量については、達成出来ませんでした。

今後も、引き続き社員一人ひとりが、環境活動への自覚をもって、行動して下さい。

2020/4/6

株式会社オカザキテクノグラス

代表取締役

岡 律雄